

2018年9月8日

## 2018年度東野高等学校同村会総会

# 議 案 書 (採択済)

於：東野高等学校活動会館

# 基 調 報 告

会 長 遠 山 尚

同村会会員の皆さま、ご苦労さまです。同村会は、本年3月に卒業した31期生を新会員に迎え、会員数が9,589名となり、2020年には1万人を超える会員数となります。その会員を基とした当会は、「卒業生・在校生・東野高等学校のために」という目的に沿うべく2017年度も活動をして参りました。

本年2月には、私と、菱沼博之副会長、役員伊達亮介さん、同じく高橋古志夫さんが、学校法人盈進学園の評議員に再任し、学校と同村会との橋渡し役として、引き続き東野を卒業した者としての意見を発信する役目を担うこととなりました。このように、同村会の役員は、盈華祭参加・会報作成だけではなく、会を支える会計事務や、PTAの役員を兼ねている方等、あらゆる場面で当会の目的に沿うための活動をしております。

今後も、会員の皆様に同村会の活動を理解・応援していただけるよう、同村会のさらなる発展につながる実り多き総会にしたいと存じますので、本議案書を基に、闊達な意見交換をして戴きたくお願いする次第です。

2017年度の活動を振り返るにあたり、活動の根幹として役員会の開催が重要となります。2017年度は、9回の役員会を行いました。昨年度に比較して開催回数は増えてはいるものの、細部を補えるほどの課題検討を行うには至っていないことが反省点として挙げられます。

同村会の活動を充実させるためにも、役員会の開催数が少ないことは、決して良い結果には繋がらないため、本年度は年に10回以上の開催を目指し、活動内容に沿ったより細やかな課題検討をしていくべきと考えております。

しかし、同村会が検討すべき課題が山積しているのも事実で、会議の開催・長時間化等の問題は、ボランティアである役員負担に直結しています。また、そのような状況下での役員次世代への引継ぎは特に大きな問題であり、役員負担軽減や、それに替わる策の検討等、役員会の定期開催に止まらず、世代交代が容易にできるような形態を検討していかなければ、より進歩し充実した役員会を構築できないと考えております。

2017年度における、同村会の新たな課題や活動について二つご報告します。

一つ目には、中長期計画として、2020年に300名超の大同窓会を計画し、それに向けた検討を役員会で継続的に討議しております。東野30周年の大同窓会において、役員・学校の教職員を含め約200名の出席を戴きましたが、これを上回る人数を確保するためには十分な準備が必要となります。そのため、2018年度より、大同窓会に向けた予算を計上・準備をしていきます。

二つ目は、卒業直前の3年生に同村会を知ってもらうため、本年3月5日、3年生との懇親会を開催致しました。

3年生は卒業後、同村会の会員となりますが、同村会がどのような活動をしているか、どのように生徒に寄り添っているか等を知ってもらうため、些細な事でも気楽に話せるような懇親会となるよう心がけました。特筆すべきは、感謝している先生の名前を挙げる生徒の話がとても興味深く、生徒と先生方との繋がり方を知る良い機会となりました。

準備時間が不足していたこともあり、参加生徒数は延べ12名でしたが、引き続き2018年度も、学校と協議のうえ懇親会の開催を継続したいと考えております。

次に、継続されている活動報告となりますが、本総会の案内と共に会報がお手元に届いたと思いますが、本年度も、2回の会報発行ができました。会員の皆さんに、少しでも多く同村会からの情報をお伝えしたいと、年2回の発行を目標とし、昨年度に引き続き、本年度も発行をすることができました。

すでに、会報が届いた方から、郵送物の転送期間が満了になるので…と、新住所の御連絡を下さった方もおり、年度内に複数回の会報を発行した効果の一端が見えています。

今後は、会員の記事の掲載等、会員の情報発信の場として、記事の充実と活用をさらに検討していきたいと考えております。

継続課題の一つである不明会員を減少させる活動ですが、会員である卒業生数は9,589名ながら、会報等の発送数は6,584件と、約3,000名の開きがあり、昨年より100名近く不明会員が増加しております。お亡くなりになった方もいらっしゃいますし、ご事情で、郵送物の発送停止を希望される方もおり、3,000名全てが消息不明者ではありませんが、不明会員を減少させるには、遠い数値であるのも現状です。

メールやFAXにて住所変更をご連絡下さる方もあり、宛先不明で戻る送付物は少しずつ減少をしているものの、不明会員自体を減少させるまでには至っておらず、引き続き皆さまのご協力が必要です。毎号会報に掲載しておりますように、会報が届いていない同窓生に対しては、同村会へFAXやメールで新住所を連絡するよう促して頂きたいのです。

また、同村会の活動の一つとして同期会の案内状発送のお手伝いをしておりますが、2017年度も1期生の同期会が開催され、案内の届いた同期生からの連絡で、不明会員となっていた方が同村会に連絡を下さる等、消息が明らかになった方が何名もいらっしゃいました。

このように、同期会の開催は会員情報の補充にも繋がることから、同村会は、同期会のお手伝いとして、案内状の発送だけではなく、2018年度より、案内状の作成や会場手配のお手伝いもすることと致しましたので、同期会を希望される方は、是非、同村会に御相談下さい。

そのほか、卒業記念品の配布や、卒業式リハーサルにおける同村会のアピール等の活動予定につきましては、従前通りの活動ができましたことを簡単ではありますが、ご報告いたします。

さて、2017年度の活動予定として挙げながら、その活動ができなかった事にも、反省点として触れなければなりません。大きくは三つあり、一つは、同村会役員と有志の先生方との親睦会の開催です。

昨年度、初めての先生方との親睦会を開催をし、とても有意義であったことから予算計上までしていたのですが、2017年度は、その機会をつくることも検討することもできずに終わってしまいました。

私たちは、現在の学校や、先生方の思いや活動をあまり知る機会がありません。また、先生方にとっても、同村会がいったいどのような考えのもと、どのような卒業生が活動を担っているのか等を知っていただく機会もありません。

現役の先生方とのコミュニケーションを密にすることで、同村会を周知していただき、その活動に理解を深めてもらう必要を感じており、本日の文化祭にあたって、手作り

風鈴によるアーケードや第一の門の装飾を、同村会が協力して手がける等、在校生に、同村会を周知してもらえようなお手伝いをしていることは言うまでもありません。

しかし、この活動にあたっては、まずは在校生とのパイプ役となってくださる担当教員とのコミュニケーションを深めることが重要ですが、本年度は、なかなか昨年のようなコミュニケーションが取れていなかったため、在校生とのより緊密な交流が図れませんでした。

このように、役員が教職員の方々と定期的に交流を深めることは、結果として同村会が、東野高等学校を中心としたコミュニティーを支え・活性化していく一端を担えると考えておりますため、今後の継続の必要性等から、2018年度も予算計上をしていきたいと考えております。

二つ目の反省点としては、収入源の検討と支出規定の検討が不十分であったことです。

現在、同村会は、その会費を永年会費として扱っておりますため、皆さまに別途の会費を頂くことはありませんが、これまでは、同村会の活動や運営を活性化するため、収入を超えた支出予算案を提示し、貯蓄からの支出もしておりました。

そのため、昨年度の総会で、一定程度の同村会の活動と必要な支出の目処が経ったことを鑑み、2017年度には、少しずつでも収入を得られる方法の検討と支出規定の検討を活動予定に挙げておりました。

しかし、東野のグッズ製作・販売等の検討も、主な販売日となる文化祭直前になってしまったこと、また、支出規定については、2017年度には、特別な支出がなかったことで、議論をする余裕もありませんでした。

あえて支出関係での意見交換が出来たことと言えば、同村会としては、今後も、在校生が、日常の部活動を円滑に、且つ、やりがいを持てるように物品等の寄付を続けていくこと、そのために、会報に掲載している部活動へのアンケートを参考にしていくことを確認致しました。

三つ目の反省点としては、卒業生の職業等の情報収集がままならなかったことです。

「会員こそが同村会の力」であり、その力が卒業生同士、そして在校生に、学校に力

をもたらすことは言うまでもありません。現在の職業が、学校の役に立つかもしれませんが、卒業生や在校生に役立つ可能性も多々あり得ると思います。同村会から仕事の依頼ができる可能性もあります。

そのような考えがあり、会報に掲載しているように、卒業生の職業について情報収集をしているつもりではあっても、どのようにその情報を収集していくかという具体的な議論や検討が出来ていませんでした。

「会員こそが同村会の力」です。今後も、皆さまのお力添えのもと、不明会員0を目指し、皆様のお仕事の力を同村会等に生かしていただけるよう、引き続き努力して参りますので、ご協力を御願い申し上げます。

最後に、ここ数年の基調報告にも記載しております継続的な大きな課題として、同村会存続のための役員・事業の継承問題があります。1人の役員が担うものが大きいと、諸般の事情でその役員が退任したことで、同村会が立ちゆかなくなる等の事態は避けなければなりません。そのため、可能な限り、作業の外注化等、役員の負担軽減を試みておりますが、まだまだ充足はされておらず役員・事業の継承もさることながら、同村会の存続と運営が、役員の好意にのみ成り立っているという危うさがあります。

また、学校からも、双方の要請についての文書化や、学校会計についての規制が厳格になっていること等の影響から、公的な会計処理を含むしっかりとした組織作りを望む声を戴いておりますことから、一組織としての同村会をどのように考えていくか…、役員が交代した場合でも事業が滞ることがないように、継承問題を常に意識し、近年の潮流となっている「同窓会の法人化」も視野に入れた討議をしていきたいと考えております。

法人化によるメリットの一例としては、本議案書にもある決算報告等も、税理士等の専門家にアウトソースする等が容易になり、結果、学校会計との差別化ができることで、同村会の経理処理による問題で学校に迷惑をかけることもなく、経理担当者の負担も軽減できることが容易に想定できます。

預貯金についても、会長の交代により、本来は、逐次名義変更が必要になりますが、法人であれば代表者の交代等は問題になりません。

また、学校に対しても、会費徴収に対する手数料等、対価を支払うことも可能になり、

双方にとってプラスになる可能性が高いと思われれます。

そのため、メリット・デメリットを含め、継承問題や学校との関係性の一環として、法人化も視野に入れた検討をしていきたいと考えております。

以上のように、本議案書において、2017年度の活動報告並びに2018年度の活動方針等をご提案し、会員の皆さまにおかれては、同村会の活動に対し、さらなるご理解・ご協力をいただけるようお願い申し上げます。

同村会は、引き続き、多方面において活動を支えてくれる方の人的充足を図りつつ、活動の場の拡充をまいります。

以上

## 第 1 号議案 2017 年度活動報告

2017 年度の同村会の活動は、採択された議案書の活動方針のもと、基調報告にありますように下記のような活動を行いました。(順不同)

新たに、新会員となる 3 年生との懇親会を開催し、同村会役員の顔を知ってもらうこと、生徒の思いを聴くこと等ができたことは、有意義な活動となりました。

2017 年の盈華祭では、第一の門の飾り付け、アイスの販売を行うだけでなく、現役生徒の完全コラボとして手作り風鈴の準備に協力をしてきました。また、本日を含む 2018 年の盈華祭においては、アーケード作成や第一の門の飾り付けのお手伝い、休憩所の提供、アイスの販売を行っています。

その他、反省点として御報告しましたように、教職員有志との懇親会や、経費にかかる各種の検討ができなかったこと等があり、今後も積極的に取り組むべき課題となりました。

会報については、新卒業生への直接配布、また、昨年より開始した 2 回の発行(夏号)をすることができております。

### 記

- 1 役員会の定期的開催
- 2 会報の作成・発送
- 3 31 期生卒業記念品作成及び配布
- 4 31 期生卒業式リハーサルでの同村会アピール(会報の直接配布)
- 5 31 期生との懇親会
- 6 各期同期会案内発送
- 7 2017 年度総会案内発送
- 8 盈華祭参加(在校生や実行委員会との交流)
- 9 会員の経験・職業等による在校生との交流会
- 10 会費以外の収入源の検討及び支出規定の検討
- 11 役員継承問題の継続討議
- 12 同村会パーティー等企画準備

以上



第 2 号議案 2017 年度会計報告

別紙、東野高等学校同村会 平成 29 年度決算書記載のとおり

第 3 号議案 2017 年度会計監査報告

別紙、東野高等学校同村会 平成 29 年度決算書下部記載のとおり

以下余白

## 第4号議案 2018年度新役員選任

信任された2018年度新役員（役職は後日互選）

遠山 尚（1）

菱沼博之（1）

北澤理恵（3）

伊達亮介（3）

毒島 純（3）

羽田寿孝（3）

根本 章（3）

高橋古志夫（4）

黒澤 豊（9）

手嶋 毅（9）

下津郁也（23）

立候補届出 小池直美（1）

（）内は卒業期

## 第5号議案 2018年度活動予定

2018年度の同村会は、下記の活動を行う予定です。(順不同)

まずは、盈華祭において現役生徒全員が参加した手作り風鈴トンネルの作成協力と第一の門の装飾等及び、同村会としてアイスの販売等です。

好評だった卒業記念品の配布、ここ数年行っている2017年度新会員へのアピールと会報の新会員への同時配布も引き続き予定しております。

第6号議案の予算案も併せて御確認をいただきたいのですが、通信費等は、年々増額が予測されますが、本年夏号が会報が経理処理上、本年度支出となってしまうため、3回分の会報発送を前提とした予算計上としております。そのため、単年度予算としては大きな赤字ですが、2017年度決算との連結で見なければ、支出を抑えられる状況も出てきておりますため、黒字となりますことをご理解下さい。

その他、基調報告にも記載しましたように、会員の経験・職業をきっかけとした在校生との交流や、教職員との懇親会の再開、本会役員の継承問題についての継続的討議、そして大同窓会に向けた準備をしていきます。

### 記

- 1 役員会の定期開催
- 2 会報の作成・発送
- 3 教職員有志との懇親会
- 4 32期生との懇親会
- 5 32期生卒業記念品作成及び配布
- 6 32期生卒業式リハーサルでの同村会アピール(会報の直接配布)
- 7 各期同期会のお手伝い(会場・案内作成・発送等)
- 8 2018年度総会案内発送
- 9 盈華祭参加(在校生や実行委員会との交流)
- 10 新たな協力委員の募集、同村会のバックアップメンバーの拡充
- 11 会員の経験・職業等の情報収集
- 12 役員継承問題の継続討議
- 13 会費以外の収入源の検討及び支出規定の検討
- 14 同村会法人化等の検討
- 15 大同窓会企画準備

以上

第6号議案 2018年度予算案

①収入の部(単年度分)

	費目	予算額
1	H31年3月時會費 (32期¥7,000×約350名)	¥2,450,000
2	受取利息	¥400
3	催事収入	¥50,000
4	雑収入	¥5,000
	計	¥2,505,400

②支出の部

	費目	予算額
1	事務費 (事務用品、消耗品、封筒等)	¥90,000
2	通信費 (電話・プロバイダ・ドメイン・会報送料等)	¥1,700,000
3	催事費 (学園祭《含既済》・卒業記念品購入費)	¥250,000
4	印刷費 (会報・総会案内等)	¥400,000
5	会議費 (交通費・会場使用料)	¥130,000
6	備品購入費	¥50,000
7	作業外注費	¥50,000
8	寄贈品・販売品等購入費	¥50,000
9	修繕費(または修繕積立金)	¥50,000
10	雑費	¥10,000
11	2020大同窓会準備	¥300,000
	計	¥3,080,000

東野高等学校同村会  
平成29年度決算書

2017.08.01~2018.07.31

収入	金額	予算額
会費 (入会金¥7,000×320名。)	2,240,000	2,254,000
受取利息	405	700
催事収入 (盈奉祭売上)	89,300	50,000
その他収入	5,040	5,000
収入合計	2,334,745	2,309,700
前年度繰越金	9,762,358	
総収入合計	12,097,103	

支出 ( )内は、主な内容	金額	予算額
事務用品費 (宛名ラベルなど、消耗品)	85,615	80,000
通信費 (電話・FAX・インターネット・会報等送料)	481,270	1,000,000
催事費 (学園祭・卒業記念品購入費・周年記念費)	338,086	300,000
印刷費 (会報・学祭案内)	166,686	350,000
会議費		
役員交通費	90,720	180,000
備品購入費	0	50,000
外注費	170,830	250,000
寄贈品等購入費	0	50,000
修繕費+雑費	24,354	60,000
支出合計	1,357,561	2,320,000

翌年度への繰越額	収入合計	支出合計	繰越額
	12,097,103	1,357,561	10,739,542

繰越金内訳	
埼玉りそな銀行 普通	140,194
埼玉りそな銀行 定期	6,210,923
ゆうちょ銀行 普通	2,301,956
ゆうちょ銀行 定期	2,000,000
現金繰越高	86,469
合計	10,739,542

上記の通り、会計報告いたします。

会計

北澤 理寛

監査の結果、相違ありません。

監査

根本 章